

たからづか都市計画マスタープラン 2012 の進捗状況と今後の課題

たからづか都市計画マスタープラン 2012 の部門別整備方針（土地利用、市街地整備、都市施設など、都市防災、都市景観）の各部門別に進捗状況と今後の課題を整理しました。

| 部門 | 進捗状況 | 今後の課題 |
|-------|---|---|
| 土地利用 | <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりルールを追加及び変更を行った。 ・宝塚市空家等対策計画を策定し、専門家と連携した施策に着手した。 ・生産緑地の地区の指定面積を500㎡以上から300㎡以上に引き下げた。 ・商業地において、空き店舗を活用し、地域の特色を生かした事業を実施するものに対し、補助を行った。 ・大規模な工業跡地（NTN宝塚製作所）において、土地利用転換を行った。 ・既存企業の事業拡張及び新たな企業の立地を促進し、市内の雇用創出と産業基盤の強化・発展を図るため、企業活動支援事業補助金を設けた。 ・新名神高速道路が開通し、宝塚北サービスエリアと宝塚北スマートインターチェンジができ、北部地域のゲートゾーンが増えた。 ・農地を活用しての収穫体験ツアーや集落営農や市民農園開設を行った。 ・北部地域土地利用計画を策定し、土地利用規制の弾力的運用を行った。 ・北雲雀丘地区のうち市街化区域内の部分（きずきの森）について、都市緑地に位置付けた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地区の高齢化が進み、まちづくルールの見直しが困難。 ・空き家の増加の懸念。 ・生産緑地面積の減少。特定生産緑地制度等の周知。 ・商業サービスの変化への対応。 ・農地の多面的機能が発揮される活用。 ・市街地周辺緑地の方針を検討。 ・森林環境譲与税を活用した里山等の保全。 |
| 市街地整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・JR中山寺駅周辺や武庫川町で土地区画整理事業による面的整備を行った。 ・開発残存緑地の保全に努めた。 ・NTN宝塚製作所跡地において、市の開発事業として、市新庁舎、ひろば、駐車場、福祉施設、県施設及び周辺の公共施設（道路等）と一体となった空間整備に着手した。（一部整備済み） | <ul style="list-style-type: none"> ・面的整備の相談を受けた地区がある。 ・自然林の手入れに対する要望がある。 |

| 部門 | 進捗状況 | 今後の課題 |
|--------|---|--|
| 都市施設など | <ul style="list-style-type: none"> ・乗客数3,000人以上の駅について、鉄道事業者に補助を行い、バリアフリー化を行った。 ・月見山、長寿ガ丘地区に路線バスを導入した。 ・ノンステップバスの車両費の一部を補助し、導入率70%を達成した。 ・道路体系網の形成に努めるため宝塚市道路網基本構想を策定した。 ・自転車通行空間の整備個所を定めるため、宝塚市自転車ネットワーク計画を策定した。 ・道路アドプト、公園アドプトの協定が進捗した。 ・宝塚市新ごみ処理施設整備基本計画を策定した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・乗客数3,000人以下の駅（武田尾駅）のバリアフリー化。 ・バス事業者との連携。 ・慢性的な交通渋滞。 ・自転車空間の整備。 ・公園の整備プログラムの検討 ・ごみ処理施設、し尿処理施設の建替。 ・火葬場の炉の更新。 |
| 都市防災 | <ul style="list-style-type: none"> ・住宅の耐震化促進のため、補助制度を実施した。 ・市有建築物の耐震化を行った。 ・ハザード区域が順次、指定及び変更された。 ・土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）内の住宅に対する補助制度を設けた。 ・汚水幹線の耐震化を実施した。 ・防災行政無線の整備に着手し、整備中。 ・地区防災計画の策定を推進した。 ・飲料水兼用耐震性貯水槽、備蓄倉庫の整備を実施した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・耐震化率の向上 ・新たなハザード区域指定への対応。 ・各施設の老朽化への対策。 ・民有護岸の雨水整備。 ・治水安全度の見直し。 |
| 都市景観 | <ul style="list-style-type: none"> ・景観計画を策定し、これに基づく審査指導を行った。 ・緑を取り巻く環境の変化等に対応するため、緑の基本計画の改訂に着手した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・景観計画の見直し。 ・道路の無電柱化。 ・防災対策との両立。 |